

## 備えなければ憂いなし



H2 ロケットの度重なる打ち上げ失敗や延期、原子燃料加工工場における重大事故、さらには日常経験する建築関係技術者作業員の杜撰さなど、科学技術庁長官ならずとも、最近、我が国の技術者の綱紀が緩んでいるのではないかと危惧を感じる。こうした傾向はバブル崩壊後の士気の低下によると言うよりも、その前から構造的に進行していた病巣が、いま露呈しつつあるのかもしれない。YRPのようなところで、折角ハイテクの技術開発を進めても、それを支える足下が腐りかけては空中楼阁となりがねない。

本随想の表題とした「備えなければ憂いなし」という語句は、某新聞の10月2日付け朝刊で、同紙看板のコメント欄が原子燃料加工工場の事故に関連して、ある書物から引用したものである。原子力事故の被害は、十分な対策がとられて

いれば、かなりの程度防げる。しかし、我が国では不幸なことに、備えはなきに等しい。備えると、危険があるように受け取られる。それを恐れて、当局や電力会社は絶対安全のみ叫び、「備えなければ憂いなし」の構えをとるのだそうだ。確かに、我が国では物事の最も重要な根っこの部分についての論議をタブー視し、枝葉の議論ばかりに熱中するところがある。戦前もそうであったし、戦後も対象こそ異なるが全く変わっていない。

下等な生物は別として、多少とも高等な生命体には免疫機能が備わっている。この機能を欠くならば、その生命体は無菌室から一步外へ出ると、感染症に罹って死んでしまう。免疫細胞も時に癌化することがある。癌になると怖いので、免疫機構そのものを持ちませんと本末転倒の宣言をしているのが、所謂日本国憲法なのである。護憲護憲と叫びつけ、原子力事故以上に国全体の安全にかかわる事柄に、「備えなければ憂いなし」と言い募ってきたのは、外でもないこの新聞ではなかったのか。

早稲田大学理工学部 教授

横須賀リサーチパーク研究開発協議会研究開発トピク会議議長  
安田靖彦

## 横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー

横須賀リサーチパーク研究開発協議会等が今後開催を予定している主なイベントは以下のとおりです。詳細は、YRPニュースやYRPホームページ等でご案内させていただきますが、講演会等については積極的にご参加くださいますようお願いいたします。

開催日	イベント
10月19日	米国ポリテクニック大学グッドマン教授 講演会
10月26日	講演会「IMT-2000の導入に向けて」 郵政省田原康生課長補佐
10月29日	米国ミネソタ大学カヴェー教授 講演会
11月1日	第2回幹事会
11月5日	CIAJ*アジア電気通信産業交流 於：YRP *通信機械工業会
11月8日～12日	ITS世界大会(ITS研究開発実態調査)
11月18日～19日	ベンチャーシンポジウム
11月26日	産学官連携セミナー 於：横浜国立大学共同研究推進センター
1月	APT-ITS技術研修
1月	最先端移動通信アジアワークショップ
2月3日～4日	情報処理学会モバイルコンピューティング研究会
2月17日～19日	電子情報通信学会移動通信ワークショップ
2月	部品シンポジウム
3月23日～24日	ミリ波国際シンポジウム

## 横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー(つづき)

### WPMC'99 (Wireless Personal Multimedia Communications '99) 及びヨーロッパ現地調査

国際移動通信シンポジウムの第2回シンポジウム「WPMC'99」がオランダアムステルダム市で9月21日～23日開催されました。

この国際シンポジウムは、郵政省通信総合研究所、及び、横須賀リサーチパーク研究開発協議会が主催するもので、第1回のシンポジウムは昨年の11月にYRPを会場に行われております。

今回のオランダアムステルダム市の「RAI Congress Center」を会場に開催された学会は、「WPMC'99」と「VTC'99」(Vehicular Technology Conference) がジョイントで開催されたため、総勢約900名の研究者が集う大きな学会となりました。

19日より始まった「VTC'99」に続き21日から「WPMC'99」が平行して開催され、午前のWPMC Opening Plenary Session、Opening Remarks での招待者講演や基調講演などに続き、次の4つの特別セッションとその他の16のセッションに分かれて100件に近い研究発表があり、3日間にわたり熱の入った討議が行われ、今回のシンポジウムは大きな成果を挙げることが出来ました。

「WPMC'99」への日本からの参加者は約40数名でその他の国々の参加者を含めた参加総数は約200名で、発表の件数も多く盛況な学会でありました。

#### (4つの特別セッション)

- ・ Asia-Pacific Workshop
- ・ 成層圏プラットフォーム システム
- ・ マルチメディア モバイル アクセス コミュニケーション
- ・ ITS

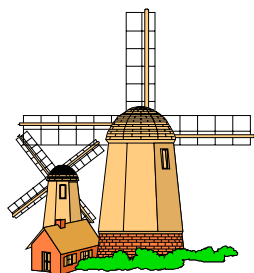
シンポジウムの合間には、21日の昼食時に優秀論文発表者を表彰する、Awards Lunch、夜のConference Banquet、22日には横須賀リサーチパーク研究開発協議会主催の「YRP R&D Committee Reception Drink」などがあり、世界の研究者が親しく歓談して交流を深めることが出来、意義のある催しでありました。

また、学会の開催に併せて羽鳥俊光横須賀リサーチパーク研究開発協議会会長を団長とする「WPMC'99 ヨーロッパ現地調査団」が組織され、オランダでの学会の外に、ヨーロッパの著名なサイエンスパーク(フランス=ソフィア・アンティポリス、フィンランド=Oulu リサーチパーク、デンマーク=NOVI リサーチパーク)及び、Ericsson、Nokia、Philips、など世界的な通信機メーカーの研究所等を訪問して、YRPの概要、研究開発協議会のアクティビティを紹介すると共に現地の研究者と交流を行い、ヨーロッパの研究開発状況及び研究開発拠点構築における街づくりの実態等をつぶさに調査致しました。

これら今回の調査は、ヨーロッパの情報通信に関連する最先端の研究開発拠点を巡って、互いのリサーチパークの紹介と現地研究者と交わした意見の交換など、調査団の

得た成果は非常に大きく、今後のYRP発展に参考となる数々の重要な示唆を得ることが出来たと同時に、ヨーロッパに於けるYRPの認知度と関心の度合いは想像以上に大きいものであった事を発見し、大変印象深く感じました。

次回の第3回「WPMC」はアジアで行うこととなり、学会開催中に開かれたステアリングコミッティで、2000年11月にタイ国のバンコク市においての開催が決定され、来年の開催に向けての準備を開始することとなります。



WPMC'99会場で挨拶される羽鳥協議会会長

## 横須賀リサーチパーク推進協会コーナー

### 郵政大臣ご視察

前郵政大臣の野田聖子様は、郵政大臣在職当時の9月27日(月)、YRPを訪問されました。

当日は、YRPセンター1番館、NTT横須賀研究開発センタ、NTTドコモR&Dセンタ、松下通信工業YRP研究所、(株)オプトウェーブ研究所等をご視察され、当協会の徳田会長、(株)横須賀テレコムリサーチパーク社長の澤田横須賀市長を始め、各所幹部がそれぞれご案内にあたりました。(下記写真参照)

### 参議院交通・情報通信委員長ご視察

参議院交通・情報通信委員長の斎藤 勁様は、9月21日(火)、YRPを訪問されました。

当日は、YRPセンター1番館、NTTドコモR&Dセンタをご視察され、対応には、当協会の徳田会長、横須賀市の井上助役を始め、各所幹部がそれぞれご案内にあたりました。



YRP地区の説明を受けられる野田郵政大臣

### YRPソフトボールトーナメントの結果について

25チームが参加して、9月13日より開催してきましたソフトボールトーナメントは、天候にも恵まれ連日熱戦が繰り広げられました。

決勝は10月7日、「とらすたーず」(NTT横須賀研究開発センタ)と「チーム浜っ子」(松下通信工業(株))が対戦し、16対12で「とらすたーず」の優勝をもって、無事終了しました。(写真参照)



優勝した「とらすたーず」チーム

## (株)横須賀テレコムリサーチパークコーナー

一昨年の10月にYRPがオープンして2年が過ぎました。このオープンを記念して毎年様々な事業をしてまいりましたが、本年は、下記のイベントを開催いたします。金曜のアフター5をゆったりとした気分でおくつろぎ下さい。

1. 日時 平成11年10月22日(金) 17:45~19:15
2. 場所 YRPセンター1番館 エントランスホール及びYRPホール
3. 内容 エントランスホールでのワインサービスとYRPホールでの室内楽コンサート  
17:45~18:30 ワインサービス  
18:15~19:15 室内楽コンサート
4. 出演者 神奈川フィルハーモニー管弦楽団選抜メンバー 4名  
第1ヴァイオリン 前田美知子 ピオラ 高木泰子  
第2ヴァイオリン 山下佳子 チェロ 長南牧人
5. 参加費 無料



## 研究所紹介コーナー

このコーナーでは、YRP地区に進出されている研究機関を毎回1～2機関取り上げて紹介します。今回は、郵政省通信総合研究所横須賀無線通信研究センターです。

### 通信総合研究所横須賀無線通信研究センター

横須賀無線通信研究センターは、郵政省通信総合研究所の新たな組織として平成9年7月に発足しました。約半年の本所（東京都武蔵小金井市）における準備の後、平成10年1月に第一陣がYRP1番館へ移転しました。同年2月には、第2研究チーム、第4研究チームが移転し、7月に無線伝送研究室、10月に電磁環境研究室と移転を完了しました。現在、当センターには職員28名、特別研究員4名、学生4名、派遣秘書5名の総勢41名が、心機一転新たな研究環境、研究戦略のもとYRPの中核的研究拠点を目指して研究開発に取り組んでいます（写真は研究室風景）

横須賀無線通信研究センターでは、産学官連携に絶好な研究環境のもと、以下のような研究戦略を立て、YRP研究開発協議会を舞台にして産学官連携プロジェクトを進めています。

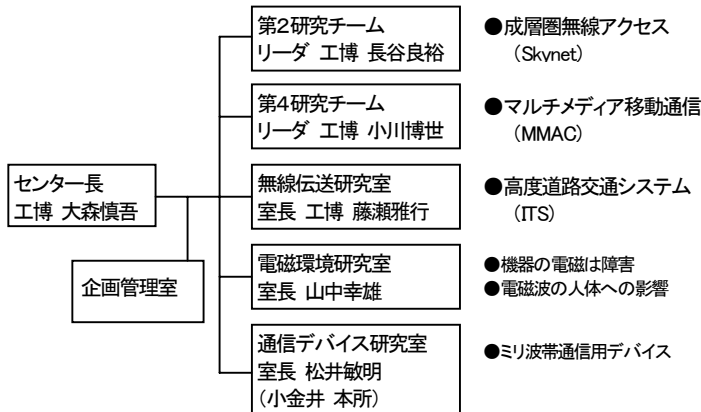
1. 無線通信の国際的研究開発拠点をめざすYRPでの中核的役割を担う。
2. 国際標準になり得るようなユーズ指向の戦略的研究開発を国際的な立場から産学官連携で行う。
3. 欧米との協調と競争のため、アジア太平洋地域の研究開発拠点、人材育成拠点をめざす。

上記の新たな研究戦略のもとに、次の3つの大きな研究プロジェクトをYRP研究開発協議会へ提案し、産の参加を募り産学官連携プロジェクトがスタートしたところです。

- (1) ITS：高度道路交通情報システムの研究
- (2) Skynet：成層圏高速無線通信ネットワークの研究
- (3) MMAC：マルチメディア移動アクセス通信の研究

さらに、今後は、大きな社会的関心となっている電磁波の人体への影響の研究など、電磁環境研究分野での産学官連携に積極的に取り組む計画です。

これらの研究開発を進めるため、当研究センターは2つの研究チームと、2つの研究室、および企画管理室から構成されており、研究セクションは、上記3つの研究と、電磁環境に関する研究を行っております（組織図参照）。



1年を経過した現在、産学官連携プロジェクトがようやく動き出したところですが、今後は学との連携が大きな課題と考えています。基礎研究に基づく研究開発、人材育成、そのための核となる大学への要望検討、大学の誘致、いわゆるベンチャー企業の誘致育成、研究支援制度の整備への取り組みなどである。具体的な研究開発課題の発掘は勿論、人材育成など肥沃な土壌、風土などの環境作り、新たな研究の芽を蒔き、育て、汗をかいた人たちが成果を刈り取るような産学官連携システム。相互に競争しながらも、協力した人々が成果を得て次なる競争と協調へ向かう研究開発の実現へ向け微力ながら貢献していきたい。関係各機関、各位の一層のご支援をお願いする次第であります。

横須賀無線通信研究センター長 大森慎吾

編集・発行 横須賀リサーチパーク推進協会

〒239-0847 横須賀市光の丘5

TEL:0468-40-4100 FAX:0468-40-4101

横須賀リサーチパーク研究開発協議会

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4

TEL:0468-47-5008 FAX:0468-47-5010

株横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4

TEL:0468-47-5000 FAX:0468-47-5010 <http://www.yrp.co.jp/>